夕刊
磐城新聞
十一月二十日發行
定價 發行所 磐城新聞合名會社
日曜祭日翌日休刊

好間の炭鑛研究

發達史と現狀及將來

吉川生

(11)

之と共に必要に迫られたるは事業構成の大要素である勞働力を供給する坑夫の募集である。如何程に坑夫數が急激に增加したかは今その人員の數を知るを得ないのでその住居した坑夫長屋の增加狀態によつて推察する。即第三圖は大正十年頃の元山炭坑の坑夫長屋の分布圖で、之はすべて現表原坑常務薗部政治氏の手によつて建築されたもので氏の談によれば殆んど不眠不休で建築を急いだ事もあつたとの事である、土によつて當時の好間村が如何に活況を呈せしかも思はれる

明治三八	二四棟
三九	二八
四〇	四三
四一	二七
四二	八
四三	二一
四四	一三
大正元	—
二	—
三	二〇
四	一五
五	二五
六	一七
七	一三
八	九
計	二六三棟

即ち日露戰爭より世界大戰に至る間は、實に石炭業界の飛躍時代であつたので明治四十年の最大四十三棟より大正八年の九棟まで四十五、大正二年の二ヶ年間停態であたが大体に漸增的な健康的膨張を示した。現在では之より稍減少する態でその衰勢を示してゐるが之は現實の社會現狀に對稱して當然の事である。むしろ堅實を表示してるといはなければならぬと思ふ

勿論此の炭鑛は大正四年六月一日本鑛區をあげてその經營と共に古河合名會社に讓渡されて連續營業し更に大正十年六月に第二斜坑は小田炭鑛株式會社に讓渡されたために、大正四年以外の狀態は古河炭坑の內容を表明したのであるが、尙昭和三四年には第三斜坑以外の同地域(元山の)が隅田川(第三坑)と共に小田吉次氏に讓渡されて今日に及んである

○福寶炭坑

經營者阿田葉爺三郎氏栃木縣足利郡北鄕村、經營代理者蓮沼龍輔氏(平町)

大龍山東南山腹好間川の假丘と上ノ臺の末端斜面の交點に開坑された炭坑で石井平吉氏より鑛區を買收して大正六年末開坑し着手して大正七年に入つて着炭、坑夫三十人にて發買廸千本位上ノ臺を横斷する※炭線を敷設して小田炭坑株式會社の手を經て更に古河炭坑に買炭されてあつたり、小田吉次氏、隅田川炭坑(津川坑)

我が常磐炭田で大規模經營ではなにしても此の炭坑程生々として健全な發展的段階を經過してるものはあるまいと思ふ、その業態は實に物理學でいふ安定な座りに一致した形態を具備してゐる。即ち本坑の業態は膨張的健康業態でその內容は第一圖表明でである

本炭坑の業態を開鑿炭坑方面から見れば

大正三年、中根炭坑、請負採

大正八年、同坑、買收出炭量一日十四噸位古河炭坑ボケットへ運炭、大正十年頃迄採掘

大正八年八月津川炭坑買收、現在五十數人の人夫を使役してる

大正十年六月小田炭坑株式會社々長として小田吉次氏が古河炭坑よりその第二斜坑を讓受け經營中昭和二年七月同社長を辭任

大正十二年十二月隅田川炭坑買收事業繼續中

昭和二年十月小田吉次氏個人炭坑として古河炭坑より第一斜坑を讓受以後採掘繼續中

大正十一年事業繼續炭坑表は第二圖表の通りで昭和八年當時稼業中のものは五坑である

愛讀者懸賞抽籤

十、十一、十二月三ヶ月分の本紙購讀料領收書と引替に抽籤券一枚を呈上。以上三ヶ月分の前納には新舊讀者を問はず抽籤券即時呈上

一、抽籤 明春一月四日
一、發表 同六日本紙上

賞品 テーブルゲーム 一面宛
一等特大形(一名) 二等大形(二名)
三等中形(三名)

朝鮮の歌

加藤欽也

京城驛の出迎へを憚りその手前の一小驛にて下車し驛前に唯一なる荒寥たる旅館に宿泊す

○宿の部屋は此の部屋のみぞ夕陽よけむと賴山陽の屏風立てたり
○日中を汽車にて過し疲れ覺ゆ玻璃障子開放ちてしばらくは居む
○夜に入りて遽かに冷ゆれ街見すと吾を率る女は羽織はたれり
○たまたまは藝者の技も爲すといふ女の後より見る街は暗き
○滯を危うく越えければ低き家居くつつきあへる街並に出づ
○廂低く吊す洋燈の灯の下に枝ながら鬻ぐ朱き茱萸の實
○店の土間に胡坐ぐ翁赤ん目を灯にすがめつゝ背籠つくらふよ
○世俗の母みな相似たり人に見せむと店頭にしよびきて子を責むるあり
○自が恚りに憤り熾しつ泣き喚ぶ童打つたゝく手を止めずけり
○手にあまる茱萸贖いぬ宿に歸りあざらけき實を居眠ながら食はむ
○心ざま大き音させて寢倒れし敷布の上に茱萸をつぶしつ
○宿の廂に枝垂れし柳その枝はいまだとゞかず再びは見ざらむ

伊豆大島旅行吟

(十一月十四日) 磯上六花

秋天へ噴煙揚げて三原山
大南風出岩をかみて波白し
船虫の浪をかぶりてさりげなく
ドラ鳴つて出船に秋の晴るゝかな

伊豆伊東温泉にて

温泉煙の霧にほぐるゝ谷間かな
秋しんと瞬く町の灯影かな

歸途横濱驛着

ゆ[illegible]秋の街ふけてゐてネオン塔

社會の今日

11月21日 △將軍下總に叛く(天慶二)△一休禪師遷化(文明一三)△富士納爭議解決煙突の赴人降りる(昭和五)△各國武官滿洲視察の途に上る(同六)△滿洲國を中心とする國際聯盟理事會開會△日本新聞協會二十週年記念大會を東京で開く(同七)

○

山路來て見上ぐる樟の梢なる、大鷲の巣に夕日のあたる 三浦傳治

屋臺店腰から下は冬の風 微塵子

講談 幕末神風組

(62) 土生太郎作 高根秀浩畫

旋風陣 (一)

危機一髮、正に上總屋藤七の爲めしよつぴいて行かれやうとした時、辛くも配下の助勢で、がせん攻撃に變つた淺野隼人は、逃げて行く藤七勢を追跡するを止めておいて、第二段の陣立に就て思ひをめぐらしてゐる時であつた

『佐吉親分だ』

『親分が歸つて來た!』

といふ聲に驚いて其方を見る

『淺野の御前………』

佐吉の弱々しい聲、疲れてゐる樣がその物腰にもよく判る

『おゝッ常陸屋!』

いふと、つか〳〵と佐吉の側へ近づくと、ぐつと力をこめて佐吉の手を握つた

『御前!』

『よく、無事でゐてくれたッ』

悲痛な對面だが、何と喜悅に溢れたことであらうか。誰も感極まつたやうに默つてゐる

全く豫期せぬ好結果である。今宵一同が神風組を襲はうとしたのも、皆、佐吉を援け出さんためであつたのが、これでは其の要もなくなつた、思ひがけぬよろこびだ

『先づは何よりもめでたい!。さあ誰か常陸屋を助けてお連れしなさい』

淺野の聲に常陸屋の子分は走りよつて常陸屋に肩をか入れる

『兎に角、八丁堀へ引揚げることにする』

風が又、サッと一しきり激しく吹き來つた

『さあ親分しつかりなせえもう大丈夫だ!』

張りつめてゐた氣がゆるんだものか、吉佐は急にがつくりしたやうに二人の乾兒の肩にもたれて力なく歩き出した

『銀月』には榎本が一同の歸りを待つてゐた

『おゝッ!常陸屋も一緒にか』

榎本は佐吉の顏を見ると滿足さうに言つた

『ゑらく御心配をお掛け申しましたが、漸く拔け出ることが出來やした』

佐吉は力ない聲で應へる

『いゝや、御苦勞ちやつたらうようく察してゐる。十分に身体を休めるがよい』

『なあに、殿へあげた身体でございます。今晩一晩ゆつくり休まして貰へばピン〳〵します』

『はゝゝ、なか〳〵元氣ぢやな、その元氣がなうてはかなはぬ、何よりめでたい一杯やらう』

榎本は用意させた膳部の來るのを待ち構へてゐたやうに佐吉へ盃をさす

『[illegible]れはどうも恐れ入ります』

久しい間、離れてゐた酒だ。佐吉は喉を鳴らして呑む、それをきつかけに一座は忽ち賑やかな酒宴場と化して行つた

が、佐吉の云つた次の一語は思はずも一同の盃を下に置かせてしまつた

『殿!今日私めがかうして神風組を拔け出すことの出來たのは皆な染香姐さんのお力なんです、どうか染香姐さんをほめてやつておくんさい』

『何、染香が……』

『へえ、染香姐さんは私めを助けたいばつかりに神風組へなびいた樣に見せかけてゐたのです』

それから佐吉は染香が一身を投げ出して我々の味方になつてゐてくれるかを詳しく語つた

聞いてゐた一同は、曾て染香をあしざまに罵つただけに頗る氣まづい思ひをしたが、更に百萬力を得たやうな力强さを感じた

流石、殿が目をかけてやるだけのことはある立派な女だ!口には出さないが何れもがさう思つてゐた事は確である

榎本は、佐吉の話を一々うなづきながら聞いてゐた

『殿、染香姐さんは實に立派な婦人です、我々にあんな婦人が味方してくれるといふことは百萬力を得たやうなものです』

佐吉は話し終つてか[illegible]け加へた。けれども榎本は別にそれに對して何事も云はなかつた

座は益々陽氣に盃の數が重ねられて行つた

『時に、取押へて置いた曲者は如何致しませうか』

酒に顏をほてらせた中村が如何にもしかめつらしい調子で云つた

美味で評判の
イワキサロン
平町電三五二

廣告

最も新らしき
ショールは
中野洋品店
平二・電53
●紳士型 五・五〇
ファー中折帽 特賣

電話新設參七七番
平町五丁目四(釜屋隣り)
田口はき物店
田口辰雄
高級塗下駄 流行草履 雨傘其他

夜間 診療
胃腸 性病
專門
內科 胃腸病科 花柳病科 性病科 皮膚科
松村胃腸性病科醫院
(平町南町電一〇七番)

入院隨意(自炊の便あり)
外科專門
X光線科
平町南町
上田醫院
(電話 一二九)
病室完備

絹織物ハ正木織物店へ
開業三十五週年を祝するため一割引にて大々的勉强御註文に應ず
親切確實ハ正木織物店ノ生命也
御註文ノ時ハ(呼出電話六七四番へ)店員伺ます
平町字新町貳十貳番
公園下
白生地
賃織販賣
正木織物店

池ノ坊流
生花教授
生花を懇切丁寧に御教授いたします、お遊びがてら御出で下さい。
平町四丁目和泉屋旅館
須藤まつの

産婦人科 花柳病科
午前宅診 午後往診 入院應需
井阪醫院
平町田町(元合津醫院跡)
電話五五九番

平町田町
高久病院
(電話五三一番)
醫學士 高久忠
新潟醫學士 赤羽濟
藥劑士 佐竹[illegible]維
內科 小兒科 外科 花柳病科 耳鼻咽喉科 レントゲン科

産婦人科 外科 藥局
院長 木村寅次郎
醫學博士 內木宗八
藥劑師 立番彌一
平町新川町十九番地
入院隨意 病室完備
木村病院
電話一六四番

難波醫院
內科 小兒科
醫學博士 難波睦
平町新川端櫻堤
電五〇二
(…入院隨時…)
看護婦募集

「家庭の裁縫はミシンの時代」
シンガーミシン見切特價品整理販賣
シンガーミシン七圓月賦販賣の元祖
シンガーミシン家庭の不要品高價買入
シンガーミシン部分品一式修繕中古品
安心して買へるシンガーミシンの賣店
ミシン會社の賣品は責任保證附
平町田町大通り
シンガーミシン會社
石城 双葉 販賣部

恐ろしい疫痢の流行期!!
○毎年六月始めより十月と申します。
○死亡率統計百人中六十五人以上として居ります。
まづ豫防に經口免疫の北里研究所製造疫痢內服ワクチンを
○價格 幼兒一人分 三十錢 大人一人分 五十錢
(文献進呈)
特約店 西村屋藥局
平二・電3

月曜論壇

古河炭鑛を祝福

昨日曜公休をトして催された古河炭鑛第二新斜坑竣功祝賀の盛典は、今春來の需要增大及之に伴ふ利益配當の復活等近來急テンポを以て甦生の一路を辿り初めた炭況の好轉氣分に力强き拍車を加へたるの觀がある元來極めて精密細緻なる學究的頭脳の持ち主たる一面果斷豪放苟も小事に翼々たらざる所謂事業家型の所長下野博士の創案に基き之亦優秀なる部下技術家によつて企劃された該事業は、之が遂行に財界不振の時代に當面し乍ら尙ほ前後滿四歳の長日月と百萬を以て稱せらるる巨資を投せられた實に同鑛劃期的の大壯圖であつた丈け當初から地方民の之に繋げた希望は蓋し絕大なるものあつたのは勿論であるが爾來事業は豫期以上の順調裡に着々進行し今日見込通り齎された一大成果が完全に社內外の期待に副ひ得た事は石炭を以て常に景氣の大宗とする地方産業界の爲に寔に慶祝に禁へざる處である、今や思想界の惡風潮が滔々として各方面に瀰漫し之の大勢は旋て篤實穩健を必要とする勞働階級を驅つて以て建設躍進の礎石を築き上ぐ可き手に破壞のハンマーを揮はしむるが如き場合無きを保せざる眞に憂慮すべき今日の世相に處し、同社の職員從業員たるもの宜しく思ひを潜めて進退苟もする事無く全山渾然和をなして一丸となり所謂勞資協調の實を擧げ而して誇るべき同社既往の歷史をして倍々光輝あらしめねばならない、之れ即ち先人の苦闘を記念尊重する所以にしてまた將來に向つて同社の使命を完全に遂行せんとするの用意に外ならない。恰も當今の石炭飢饉に際し今後操業の伸展と共に一日千噸の出炭能率を有する古河炭鑛第二新斜坑の竣功は少くとも常磐炭鑛史上華やかな一頁を加ふるものとして衷心その前途を祝福して措かぬ。昨日の盛式を見て敢て寸感を叙する事爾り

全山を擧げて歡天喜地 躍進古河の前途を祝福
昨日第二新斜坑竣功式盛況

好間村古河炭鑛の劃期的躍進を祝福する第二新斜坑竣功式は昨十九日の日曜公休をトし午前十時から同所山神社に於て下野所長以下棟長以上が參列し起業完成奉賽祭を擧行、午後一時からは忽滑廣場に於て全山職員地方有志約千名の祝賀園遊會を開いた。先づ下野所長より新斜坑が昭和四年開鑿以來巨額の費用と多數の人役を要して今回排氣坑と共に立派に完成、こゝに本社より佐々木專務を迎へて今日の盛典をあぐるに至つた事は欣びに堪へぬ處であると述べ、次に佐々木專務理事から從業員各自がこの斜坑の誕生を機として一層の勉勵努力を望む事を所長に代つて御願ひすると結び後從業員代表下坂自治會長、來賓代表金成好間村長の祝辭あり、同二十分から多數模擬店を配した園遊會に移り和氣靄々裡に同三時閉會した

歡喜の大氾濫！
朗かな園遊會場風景

之れより先園遊會に臨み直轄及臨時夫約九十餘名は正午小館倶樂部前廣場に集合四組二十餘名の統制委員に導かれる全員は喜色滿面長蛇の如く徐々として紅白の幔幕に彩られた會場の大アーチを潜る。朝來の雨は歇んだ下野所長の、金成村長の——發聲で擧げてれる——萬歲の歡呼、急霰の拍手、會場には早くも靄々たる和平の氣が溢れた、中央の舞臺より晩秋の空に響き渡る音樂隊の吹奏。新田町美妓連のサーヴィス等々、場內七ケ所に設けられた模擬店に左黨甘黨夫々の味覺道樂を恣まにする

×

おでん屋に燒鳥屋、繁昌のそば、うどん部。蹣跚たる會衆の間を泳ぐ美形連等、皆歡喜の氾濫である。洋樂は野趣に滿ちたる踊り音頭と化して幾篦にも描かれる踊りの輪、暗雲は流れ去つて快い秋陽が輝り出す下に歡喜は一しほ高潮されるのであつた

公判の結果如何で 依然現村長支持
刮目さるる玉川事件

玉川村では二十四日開かるる村長駒木根忠三氏の公判後村會を開き匡救土木事業の後仕末に關する諸事項を附議するが之れより先駒木根村長は明二十一日辭表を提出する模樣なるも十二名の村議中二名ゝ反對者を除き來るべき公判の決定如何によつては同人を再選する意嚮で兩三日來寄々その運動が行はれつゝあると

田久氏說漸次有力化
赤井村長問題解決近づく

赤井村では助役選擧に就きて端なくも前助役吉田豊氏再選說と村議松﨑松太郎氏擁立說に分れ睨み合の形となり村長松本金治氏は村議菊地德太郎氏一派との公約を無視す能はず爲めに辭職した結果兒山忠一縣屬が職務監掌として派遣せられたので兒山氏は去る十六日村議を召集なして協議會を開いた處村議草野三郎氏より村長に猪狩忠八氏助役に羽賀政雄氏を選擧したき旨の提案あり、兒山氏は極力滿場一致該案の實現を希望したが三名の解答留保組と三名の欠席員があつた爲め翌々十八日の村會に持越すことゝなり十八日正午より村會は依然協議會の形式で開かれ兒山氏は依然前說を提唱して止まなかつたが菊地德太郎氏一派は豫て永井道路を開鑿して赤井、永戸兩村交通の利便を證り其筋より再三表彰を受け、且つ前村議在職中には日立電氣との營業收益税協定の爲め寢食を忘れて奔走して有力なる村財源を作り、現在は村是調査會長として産業五ヶ年計畫樹立等其間の地勢少からぬ田久彌七氏を村長候補者に推擧して贊意求めつゝあるので近く召集の村會では同氏に決定するではないかと觀られてゐる

攻防接戰大奮闘裡に 惜しや七回目で閉幕
磐陽野球決勝に磐炭捷つ

磐陽野球協會主催東朝平通信部後援の磐陽野球大會の磐炭對入山の決勝戰は昨十九日磐中球場に於て行はれた、正午頃から早くもつめかけた觀衆は磐炭一壘側入山三壘側に陣取り午後二時蓮沼本社長の始球式で早大多田(球)水竹、佐藤、熊(壘)審判の下に入山先攻試合は展開された

入山一回に於て早くも四點を獲得、以下六回迄磐炭押され氣味で六回を終つた時の得點入山一一、磐炭七、四點の開きを生じ漸くラッキーセブン七回の表に入山三點を得れば磐炭その裏にワンダンで滿壘の際ホームランを飛ばして一擧四點を取り次にランナー二壘三壘にある時二壘打を出して二點、又ランナー一壘二壘にあつて本壘打計九點を得て次回に移り八回表得點なく裏磐炭三點を得てスコアー一九對一四磐炭五點リード此頃既に暮色せまり九回表入山攻撃中午後四時四十五分戰を中止、審判協議の上スコアは七回迄として一六入山一四で磐炭の勝に決し午後五時優勝旗授與散會、スコア次の如し

入	4	1	1	5	0	0	3	14
磐	0	1	4	2	0	0	9	16

安中軍挑戰
來二十三日來平 磐中、平商と試合

安積中學野球部新人チーム一行は來廿三日新嘗祭當日平着午前八時三分で來平午前平商、午後磐中と各試合を行ふと

。。。。。。更生運動講演 平町十五丁目日本基督平教會では來る廿三日午後七時から仙台教會牧師荻原信行氏の國民更生運動講演會を催す

關係町村 分配說强調
東部電の營收税に就て 平町からも意見書提出

東部電力に對する昭和六年度收益税の町村附加税に就いては去る九月七日平町外關係十四ケ市町村が郡山市役所に會合之が賦課に附き協議したが協定見込みがつかず發電所側の希望に依り縣の裁定に俟つ事として物別れとなつたが其後川前外七ケ村より主催者たる郡山市に向つて意見書を出したので平町からも概略左の如き意見書を提出したが多分今月末頃縣地方課長により圓滿解決するものと觀られて居る

營業收益税は人税若くは物的税に非ざるは勿論郡山市及當町には發電所に關係なき瓦斯の營業所より生ずる利益あり、營業收益税は其の行爲に對し課税するものなれば之れに依りて得たる收入を以て分割歩合標準の主なるものと爲すは蓋し當然のことゝ信するを以て分割決定を望むものである

縱覽者僅に廿八名
差當り改選も無いので 有權者名簿に無關心

平町では既報の如く去る五日來町會議員及衆議員選擧名簿は昨十九日迄縱覽せしめたが差當り改選もない處から僅か二十八名であり一般の無關心振りを遺憾なく物語つて居る、尙異議申立ては一件もなかつたと

機關庫擴張
來月下旬頃竣功

平機關庫では事務擴張の爲目下經費一萬六千圓を投じ東京東海工業會社請負ひで左の如き投炭練習所並に貨車修繕所を建築中であるが來月下旬頃までに竣功する

模型投炭所—機關助手事務練習所、洗炭所、事務所、投炭所(六ケ所)貨車修繕所—木鐵混造百五十坪、收容貨車十六臺

運輸事務取扱競技
水戸運輸事務所管

內指定運送取扱人集配事務競技會は來る廿六日水戸市役所に於て執行されるので平運輸會社からは鈴木淸松鈴木擧子、佐藤忠義の三君が出場するが去年第一回の大會では平から同社高橋君が出場して二等賞を得たので今年も目下練習中であるが競技種目左の如し

規程類の諮問、受託監査集配證明、票類、貨物通知書の作成、珠算競技

觀世素謠會
昨日谷口の盛況

平觀世會素謠會は昨十九日午前八時より谷口樓に於て開催したが平町は勿論遠近各地からの參加も少からず非常な盛會であつた

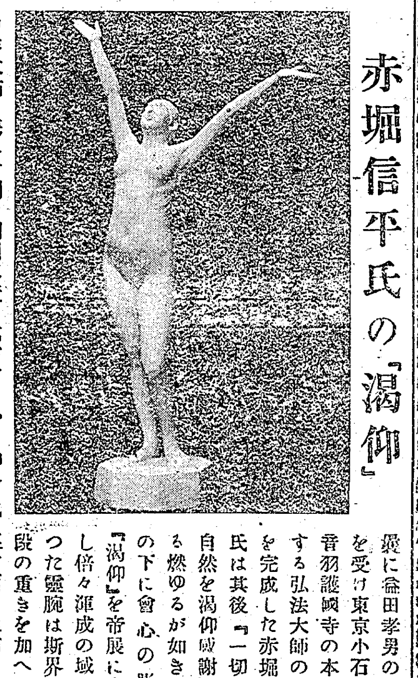
直前の合圖と共に 一齊に想定開封
些か他と趣を異にした 神谷校の火防演習

過般の火防デーに際しては地方の學校病院其他各團体等夫々の行事に火防觀念を强調したが略ね既發の出火を基準とした動作上の想定演習に止まり之が未然防止に關する所謂形而上的の精神運動は始ど見受けられず大体其の軌を一にじた千遍一律的消極方面の催しのみで餘りに平凡に墮したかの觀があつた、然るに單り神谷校では事前に密封した演習實施案を各職員に渡し置き同日午前十一時五十分振鈴の合圖と共に之を開かしめ各教員は其時初めて見る想定に基き咄嗟の間に夫々機宜の震火災避難演習を試み鎌田校長以下夫々部署を定めて活動したと云ふ事で一般模擬演習中比較的出色の催しと觀られてゐる

非常網に賊
特別執行の獲物

平署では十八日午後十時から十九日午前四時迄の間に亘り非番巡査を召集平町を初め綴、湯本の特別執行をなしたが內鄕村の野菜泥外窃盜一件を檢擧目下川島司法主任が取調べ中

赤堀信平氏の『渴仰』



曩に益田孝男の依囑を受け東京小石川區音羽護國寺の本尊とする弘法大師の大作を完成した赤堀信平氏は其後『一切々大自然を渴仰感謝』なる燃ゆるが如き信念の下に會心の彫塑『渴仰』を帝展に出陳し倍々渾成の域に入つた靈腕は斯界に一段の重きを加へた、力作數點を携へ寸閑を利用し近く臨省するかも知れぬ旨某方面に通信あつた

夏井川鐵橋
愈々補强工事着手

既報—川崎造船所に落札去る一日から着工した夏井川鐵橋補强電氣熔接工事は目下毎日十餘名が從事し遲くも來年一月末頃までに完成

列貨車百輪の重量にも耐ゆる完全なものが出來るものであると

走行(五ケ年間)三百萬キロ 無事故運轉表彰
新井局長を迎ふる平機

平機關庫では走行三百萬キロ五ケ年間無事故の廉により東鐵より表彰される旨既報したが愈々來月四日新井東鐵局長を迎へて盛大な祝賀會を催す事になつたが當日は銀杯授與式終了後同庫倶樂部に於て祝賀會を催し從業員二百六十名には銅製の記念メダルを贈る事になつたと

電話線變更
明日より面目一新

平と綴、小名濱、江名間の電話線は從來二回線で取別け豊漁季の海濱地方地方を初め東京方面との通話が增加するので明廿一日より左の如き電線の變更をなし通話の敏活を期する事になつたと

(平—綴)單獨線設置(平—小名濱)二回線を重信曲線として三回線(平—江名)豊間經が撤去江名直通の重信線

第二鄕土祭
準備漸く整ふ

平第二校では來月中旬行はれる鄕土祭の出陳品として安藤信正公、澤村勝爲等の胸像製作中であつたが安藤公の分は銅像、肖像などを基本として、澤村公の分は勸兵衛翁十二代の後裔勸一氏の寫眞その他を資料に中々立派に出來上つた、尙同祭には昔時の平町を偲ばしむる城下繪圖、東京子爵家の所藏に係る閣老の寫眞、其他鄕土の人文、地理、産業の調査資料等を多數出陳ある外既報の教員兒童合作對話劇、その他鄕土に因める學藝會等の催しにより一段の光彩を添ふるものと豫想されてゐる

。。。。。。ド球大會延期 昨日の豫定であつた濱三郡ド球大會は惡天候のため中止となつたが大体來二十六日の日曜日頃に延期された

鐵物自轉車雜など 合計百餘件の盜み
常習犯終に捕はる

當時住所不定無職江名町仲の作生れ前科六犯丹野梅次郎(三八)が去る八月頃同町遠藤某宅から鰹節を窃取逃走以來平署では各方面に手配嚴探中であつたが一昨十八日午後九時頃小名濱町某飲食店に飲酒中の同人を同町駐在井上巡査が逮捕、目下平署で嚴重取調べ中であるが同人は八月以降四倉、小名濱、江名の各濱を跨にかけて鉋金、自轉車、鷄など百餘件の盜みを働いた事が判明

古鍛冶踏切 警報器廢止
番人常置となる

平町古鍛冶町鐵道踏切りには去る六年十月より夜間警報器を設置して居たが今回番人の晝夜常置となつたので廢止された

。。。。。。吉田屋工場受賞 平町五丁目馬目武之助氏は過般若松市で開催された東北六縣工藝品競技會に出陳三等賞として金一封を授與されたると

。。。。。。實踐夜學開始 四倉町立實踐水產商業學校內の夜學は今廿日から授業を開始すると

。。。。。。磐女卒業生見學 來春卒業の磐女四年生百八十四名は近く係教師引率の下に平町各銀行、官衙、工場等を見學すると

酒造組合總會

去る十五日平税務署で開いた石城酒造組合總會に於て來酒造年度の組合歲入出豫算三、〇二三、六三錢を協議し今廿日縣にその申請をなした、尙來年度製成高は左の如くである

淸酒一五、〇九六、三九〇合、燒酎四八五三、六二 合計一五、五八一、七五二合

尙ほ左の如く役員の改選をなした

會計馬目玉彌(平)評議員根本金市郎(平窪)豊田吉松(草野)馬目太平治(內鄕)

。。。。。。豊間局移轉 無集配豊間局は逐年事務の輻湊により從來局舍では狹隘となつたので今回眞向ひに移轉した

。。。。。。私設電話許可 景氣好轉から通話の輻湊を來して居た磐炭、古河では此程各五台宛私設電話の增設を許可された

。。傷害 平町字鎌田町五〇士工山浦淸(三九)は十九日朝隣家の飴行商長谷川駒之助(五二)と口論の末泥棒呼ばりをされたのを遺恨に思ひ同日午後四時頃棍棒を携へて駒之助の家に暴れ込み同人の頭部を毆打全治三週間の傷害を負はせ平署に檢擧された

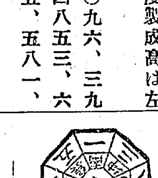
四倉通信

水死体發見

四倉の遭難老漁夫 去る十三日朝出漁の際四倉港口で漁船より轉落行衛不明となつた四倉町字本町佐藤庄治(六二)は引續き搜査中であつたが十八日午後三時半頃同海岸に漂着したのを發見四倉署神長部長檢視の上十九日執行た

。。。。。。波立で施餓鬼 四倉町字新町仙臺高工二年生徒門馬雄次郎(二二)君の死体は未だ發見されぬが昨十九日同君のため波立海岸に於て施餓鬼を執行した

。。。。。。入營兵出發 四倉町本町庄司正雄君は滿洲獨立歩兵隊に入營のため昨十九日朝出發した



舊十月四日 火曜 辛卯 先勝 定 尾宿 新十一月廿一日

諸判定應需 東京市本鄕區湯島四丁目五番地 高島易斷總本部 神 鑑 宗

▲一白の人 心に叶はぬ意見出づるとも之に從ふが安全▲二黑の人 勇往邁進して利益多大なる日但怪我に注意▲三碧の人 萬事成功の見込なき日心靜かに本業を守れ▲四綠の人 收支つぐなはざる日無益の事は止むるに如かず▲五黃の人 舊態を守りて新規の事に手を出すべからず▲六白の人 小人の言を妄信するときは不測の災を招く▲七赤の人 人一倍の努力をなしまされば成功近きにあり▲八白の人 溫情は人の爲めならず己に復りて幸となる▲九紫の人 身の分限を忘れず差控へるが安全病災注意